休憩を解き会議を再開いたします。

次に、保坂　悟議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。　〔１１番　保坂　悟君登壇〕

○１１番（保坂　悟君）

公明党の保坂　悟でございます。

発言通告書に基づき、１回目の質問を行います。

１、大糸線問題と広域観光と地域活性化について。

国は観光立国を目指し観光庁を設置し、訪日外国人による経済効果を目指したが、コロナ禍で進んでいない。ＪＲはローカル線の赤字補填がコロナ禍で深刻な問題となっている。そこで、今後の糸魚川市の取組方針を伺う。

(1) 大糸線のような赤字ローカル線について「生活の足」から「インバウンド観光」に目的を変更し、観光庁を中心に広域観光戦略を大きく展開する国策とし、沿線自治体とＪＲ等の民間とともに連携事業化を目指す考えはあるか。

(2) 鉄道観光を含めた広域観光バスやタクシーの拡充ができる新潟県、長野県、富山県等とそれぞれの市町村と連携した広域観光公社をつくる考えはあるか。

(3) 平成２７年２月２７日の一般質問で戦略的観光公社の提案をしたが、既存の観光協会を拡充する方針であった。改めて①糸魚川市の四季を楽しむ戦略、②ターゲットを絞った安定的な利用者の確保、③通年ガイド兼各種インストラクターとなる人材の確保と育成、④広域で稼ぐため他市町村の施設を利活用する観光ルートの開発、⑤他市にはない楽しみ方を提供するための観光戦略が必要である。こうした取組のために糸魚川市観光公社の設置を提案するが、検討する考えはあるか。

２、学校等におけるＳＤＧｓ（持続可能な開発目標）の取組について。

(1) 「ＳＤＧｓ」の定期的なセミナーについて。

ＳＤＧｓの目的と取組について理解を深めるセミナー活動は、どのように展開されているか。

(2) 貧困や飢餓、健康や教育、ジェンダー平等などについて。

① ＬＧＢＴＱ（性的マイノリティ）を理解する取組はあるか。

② 学校の制服や体操着、水泳着について検討をしているか。

③ 学校のトイレや更衣室について検討をしているか。

④ 人権擁護と男女共同参画の推進として、雇用（就労）における男女差について、日本の実態や現状を紹介しているか。

(3) 気候変動対策と自然環境の保護について。

① 脱炭素社会について具体的な取組を紹介しているか。

② 海洋と海洋資源の保護についての取組を紹介しているか。

③ 陸上生態系の保護と森林等の持続可能な管理についての取組を紹介しているか。

(4) 中学生キャリアフェスティバルについて。

参加事業所からＳＤＧｓの取組を紹介してもらうことはできるか。これは企業が独自にＳＤＧｓをされてるところを紹介していただければと思います。

３、糸魚川市におけるＳＤＧｓ（持続可能な開発目標）の取組について。

(1) 「ＳＤＧｓ」の市民セミナーについて。

ＳＤＧｓの目的や取組について一層の理解を深め、身近なところから始める世界貢献を推進するセミナーを行う考えはあるか。

(2) 世界ジオパークを生かしたＳＤＧｓ観光の振興について。

① ジオエリアの楽しみ方を工夫する取組はあるか。

② 海をきれいにする観光や山林を保護する観光の取組はあるか。

③ 子供たちの体験観光についての取組はあるか。

(3) 気候変動対策と自然環境の保護と仕事の提供について。

① 水力や風力による脱炭素社会についての取組はあるか。

② 海洋と海洋資源の保護と活用についての取組はあるか。

③ 陸上生態系の保護と森林等の持続可能な管理と活用についての取組はあるか。

(4) 貧困をなくす活動について。

① 低所得者世帯への支援について取組はあるか。

② シングルマザー世帯等への就労支援と教育支援についての取組はあるか。

③ 貧困の負のスパイラルを断ち切る取組はあるか。

４、農林水産業と福祉事業との連携について。

障害者雇用の推進は法律に基づき行われているが、不登校・いじめ・パワハラ等の原因によりひきこもりになり、外で働くことが難しくなった方たちがいる。そこで、就労環境を変えることや精神的な配慮をすることで働く場所や働く機会の提供を積極的に行う必要があると考える。

(1) 福祉事業としての農林業の職場開発について。

① 農作業や除草について検討する考えはあるか。

② 間伐と植林作業について検討する考えはあるか。

③ 除雪作業について検討する考えはあるか。

④ 耕作放棄地の活用について検討する考えはあるか。

(2) 福祉事業としての水産業の職場開発について。

① 未利用魚の活用について検討する考えはあるか。

② 海洋高校と漁協と漁港のコラボレーション企画として「面白くてうまい店づくり」について検討する考えはあるか。

③ 養殖事業の推進について検討する考えはあるか。

(3) 糸魚川市シルバー人材センターの改革について。

センター設立当時と退職者の再雇用などで背景が大きく変わっている。そこで市として福祉事業部門の設置を検討し、提案できないか。

５、教職員へのサポート体制について。

昨年９月３日の一般質問で学級崩壊が起きた場合の教職員への支援策について質問し、「実態を丁寧に把握して、ケースに応じた支援を行っております。」と答弁があった。ただ、ケースによっ

ては対応し切れないこともある。そこで以下の項目を伺う。

(1) 教職員の負担軽減とサポートの取組について。

① 学級崩壊等の対応について。

② いじめ・不登校の対応について。

③ 保護者によるハラスメント等の対応について。

④ 教職員によるハラスメント等の対応について。

⑤ 就労時間の管理について。

(2) 教職員の不祥事について。

教職員の不祥事やミスのニュースがよくある。そこで県と連携した不祥事防止等の対策や取組の強化は行っているのか。

(3) 教育費の増額と教職員の加配等の拡充について。

多様化する学級（学校）運営には、十分な人員配置が必要である。市は県と共に抜本的な適正配置の考え方を見直し、「働き方」より「適正な仕事量」や「精神的な負担軽減策」について、国や県に提案してはどうか。

以上で１回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

保坂議員のご質問にお答えいたします。

１番目の１点目につきましては、引き続き大糸線活性化協議会や北アルプス日本海広域観光連携会議等を構成する沿線自治体、ＪＲ等関係機関と連携を図り、市民と協働し、広域的な観光に取り組んでまいります。

２点目につきましては、広域連携を進める中で必要に応じて検討してまいります。

３点目につきましては、今後ともＤＭＯである市観光協会を中心に、市商工団体、各種事業者等が一体となった観光戦略により取り組んでまいります。

２番目のご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしくお願いいたします。

３番目の１点目につきましては、４月に市内の団体による自然資源を活用したＳＤＧｓへの取組事例についてオンライン発信をいたしており、今後も出前講座等を通じて周知・啓発に努めてまいります。

２点目につきましては、ユネスコ世界ジオパークには、ＳＤＧｓ達成に向けた貢献が求められることから、観光の中でＳＤＧｓの周知・啓発を図ってまいります。

３点目の１つ目につきましては、民間事業者が水力発電や風力発電の実施に向けて取り組んでおります。

２つ目につきましては、海洋プラスチックセミナーや禁漁区の設定、水産物の販売促進に取り組んでおります。

３つ目につきましては、外来動植物の駆除や地場産材の利用促進など、取り組んでおります。

４点目につきましては、就学援助や就労しやすい環境の整備などのほか、住まいや就労などのサポートにより、自立した生活を送れるよう支援に取り組んでおります。

４番目の１点目と２点目につきましては、働く意欲のある障害者と農林水産業の関係者のニーズを伺いながら、連携を進めてまいります。

３点目につきましては、シルバー人材センターは、原則６０歳以上の方に対し、就労を通して生きがいづくりを推進することを目的といたしており、現時点において提案することは考えておりません。

５番目のご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしくお願いいたします。

以上、ご質問にお答えいたしましたが、再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

鷭本教育長。　〔教育長　鷭本修一君登壇〕

○教育長（鷭本修一君）

保坂議員のご質問にお答えいたします。

２番目の１点目につきましては、ＳＤＧｓの視点を学校が取り組む実践上の努力点に明記するとともに、上越教育大学と連携し、自主セミナー等での学びを促しております。

２点目の１つ目につきましては、教員の研修の機会を設けて進めております。

２つ目、３つ目につきましては、状況により対応を進めております。

４つ目につきましては、中学校の公民で学習を進めております。

３点目につきましては、学校教育においては、主に理科、社会科の学習や総合的な学習の中で発達段階に応じた学習を進めております。

４点目につきましては、参加事業所での取組について説明していただくよう依頼をしております。

５番目の１点目につきましては、学校と市教育委員会が情報共有を密にし、必要に応じて上越教育事務所や関係機関とも連携し、学校を支援しております。

２点目につきましては、県の通知を基に毎月の市校長会で繰り返し指導をし、各校で計画的に研修を実施しております。

３点目につきましては、定期的に行われる県の人事担当者との懇談会などで、市の現状や要望を伝えることで配慮していただいており、今後も継続してまいります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。

○１１番（保坂　悟君）

それでは、２回目の質問をよろしくお願いいたします。

まず、コロナ禍によりＪＲ西日本は大糸線の赤字状況を公表されました。国も検討事項といたしまして、３年間ぐらい考えるような方針だそうであります。

１回目の質問で言ったとおりなんですが、今の状況だと、結論から言うと廃線か存続かみたいな議論になってしまうんでしょうけども、そうではなくて、もう一つのものの見方として、大糸線の背景を考えると国費を投じて、昔、大糸線が設置され、平成７年には、７・１１水害で大きなダメージを受けたんですけども、国費を投じて、また再興、復旧してもらったと。今、車社会で通勤・通学の運営形態では、鉄路を使う利用者というのは少ないのもずっと見てきたとおりで、少なくなってきてる現状はやむを得ないのかなというふうに思っております。

ただ、ここで無理くりに、ただ電車、大糸線を使いましょうと言っても、なかなか今の生活スタイルからまた戻すというのはなかなか難しいだろうと。そういったことを考えると、新たな選択肢としては、鉄路事業自体を本当に観光資源というものの入り口論から入っていって、通勤・通学から収入を得るというよりも、海外に目を向けたインバウンドの形で、糸魚川でしたら大糸線に限るんですけども、大糸線の四季に合った外国人の知らない世界というものを真剣に考えて、糸魚川にいざなうというか、そういうものを酌んで大糸線の維持を図っていく。そういったやっぱり考え方を国、県、また市町村、また民間もそこにまたビジネスチャンスが生まれるような、そういう話合いをぜひしてもらいたいなと思うんですけども、そんなの荒唐無稽で無理だよと決めつけてしまえば、そこで終わってしまうので、そうではなくって、今の、ただ赤字だ、廃線だ、存続しても費用負担どうするんだと、条件闘争ばっかりするんではなくって、せっかくある鉄路です。それをうまく生かしていく、環境整備も真剣に考えていけば、もっと違う見方もできるかもしれない。そういう取組をぜひ糸魚川からも発信してもらいたいなと思うんですけども、その辺の方向性なり、検討する機会を設けるなりなど努力を、ちょっとその考えがあれば教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

お答えいたします。

非常に以前から大糸線の存続について、また大糸線の活性化については取り組んでまいったわけでありますが、コロナ禍でそれが顕在的に浮上してきたのだろうと思っております。

今、議員ご指摘の、やはり最終的には、我々はそういう方向に持っていかなくてはいけないと思っておりますが、しかし、例えばＪＲ西日本、ＪＲ東日本、そしてまた、これは新潟県にしろ、また長野県にしろ、そしてまた、国にしろ、やはり今住んでおる生活の中でどう利用されるのか、どう利用のための活性化をしていくかというところを指摘されとるところが強いところがございます。そういう中で、我々はやはりそうではなくて、大切な鉄道資源を生かした観光、地域振興につなげていけないかというところに、方向にシフトしていかなくてはいけない部分でございますので、そういったところをどのように示していくかというところが、今我々が、地元がやらなくてはいけないところではないかなと思っております。それには、ある自然資源の示すことと、もう一つは、やはり住んでる人たちがそれに対してどういう気持ちでおるかという、強い気持ちを出していかなくちゃいけないだろうと思っております。それが、糸魚川市のみならず沿線自治体で一体となって取り組んでいくのが、私は今進めていく方向でなかろうかなと捉えておる次第でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。

○１１番（保坂　悟君）

今ほどの市長の答弁の中で、沿線住民の熱量といいますか、そういったものが大切だと、私もそう思います。

ただ、先ほども言いましたとおり、今ある生活の中で無理くりに大糸線を使おうというキャンペーンだと、キャンペーン自体を支援する自治体も、それをまたキャンペーンだから期間限定で使うというやり方では、まさに持続可能にはならない。カンフル剤にはなるかもしれないけども、持続可能にはならない。それが多分、これまでのやり方だったんだろうと思うんですね。全くだから視点を変えて、そういう生活路線というよりも、今糸魚川にある、大糸線にある環境を、いかに雪のない国、または山の少ない国、海のない国、そういう人たちの、住民にとって新鮮な非日常の空間を提供できるという視点で、これは自治体だけが頑張っても駄目だと。国が本気になって、北信越ブロックの大糸線ルートについては第一優先的観光路線にしようとか、あとほかのまたそういうローカル線があれば、そこも第二のそういう観光ローカル線というか、観光鉄道にしようとかという何か国家プロジェクトの中に、自治体に対しても民間に対しても一緒になってビジネス、ちゃんと利益を上げて、鉄路を守りながら地域活性化につなげようという、やっぱりそういうプロジェクトみたいなものもやらない限り、多分、ジリ貧になると私は思ってるんですね。

もっと悪く言えば、廃線にしてしまえば、もう二度と鉄路を敷くことはできない。廃線にした後だって、鉄路の幅は知れてますわ、道路造るにしても何にしても。そういうことを考えると今の鉄路を大事にする中で、どう収入を得ていくか。どう皆さんに利活用してもらえるかという着眼点に立つと、やはり今の生活路線からやっぱり外、海外に目を向けなければいけない。

ただ、今コロナがあるんでぴんとこないかもしれませんけども、やっぱりそれは国会議員、県会議員、かけ合って、大糸線ばっかりじゃないです。九州は九州、北海道は北海道、中部は中部、どこも課題として持ってるわけですから、それは大いにみんなで話し合って、各ブロックに１本や２本こういう鉄路の構築をするというちょっと思い切った行動を米田市長にはリーダーシップ取ってもらって、ジオパークみたいに。ぜひやっていただきたいんですけども、その辺いかがなもんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

お答えいたします。

確かに議員ご指摘な、私は状態になっておると思っております。もうこれは全国、人口減少の状態が各都市起きておるわけでございますから、遅かれ早かれ全国にこれは広がる部分だろうと思っております。そういう中で、日常生活の中で市民生活の中で活用できるのは、大都市周辺のベッドタウンのようなところは、それはそういう形でできていくと思いますが、そうでないところについては、やはり観光というものを中心にしながら地域振興の中で位置づけしていくことがいいのではないかなと思っております。

そういう中で、今即、議員ご指摘のようなプロジェクトなりそういった大組織ができて、動いていけるかというと、そういうところにまだ行ってない状況でございますので、そういったところにつなげていけるような熱伝導をしていくことが、やはりそこに住んでおる住民と行政が一体となって、今大切な鉄道に対しての思いをどう表していくかというところで広げていく、その一つのやはりスタートになっておるんではないかなと。それを路線路線で沿線住民と一体となって、広げていきながら、この運営会社なり、また国のほうに訴えたり、諸制度に訴えていくことをしなくてはいけないんだろうと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。

○１１番（保坂　悟君）

そこで、まず手始めというわけではございませんが、もう既にえちごトキめき鉄道さんで取り組まれてるような雪月花のほかの路線への乗り入れであるとか、やっぱり雪月花の魅力もすごいということで、ぜひそういうほかの鉄路にも入っていってもらいたいですし、私いつも一般質問の提案で言うのは、大井川鉄道さんのトーマス号ですか、ああいったものであるとか。蒸気機関車はちょっといろいろまた立地の問題もいろいろあったり、回転盤だとかいろいろ問題もあるんでしょうけども、やはりほかの、あと信州の「ろくもん」ですか、ああいったいろんな電車とディーゼルの、また問題もあるんですけども、まず広域でそういうローカル線で課題抱えているようなところを、そういう意味でのアピールとしては、そういう相乗りをするような企画をどんどんやっていただいて、そこに日本人もそうなんですけど、やっぱり外国人の方にやっぱりそこでサービスを受けてもらえるような、そういう取っかかりをぜひ民間と、また自治体と連携取って、まずその辺から強化して、今やってるんですけど、また強化してやっていただきたいなと思います。その辺の考え方とか進め方はいかがなもんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

お答えいたします。

やはり魅力づくり、そして情報発信というものが一番大切になってくるかと思います。そういう中で、そういったところに取り組んでいけるような、地元のやはり、何度も言いますが住民の熱意をどう表していくかということをそこも進めていきたい部分でございますし、ただ単にイベントだけやっとりゃいいということに落ち着いてしまうんですが、そうじゃないんだというのをやはりどういう形で示していくかというところもまた問われる部分だろうと思うわけでございますし、そういうところがあればこそ、また国なり、また国会などでも取り上げてもらえるんではないかなとは思っております。でありますから、そういうふうに仕向けていく今段階でなかろうかなと思っておりますので、議員提案いただいたようなこともやはり当然やっていかなくちゃいけないと思っておりますので、なるべく多くのいろんな、魅力あるいろんな事業に対しては、しっかり連携していきたいと思いますし、つなげていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。

○１１番（保坂　悟君）

そこで、まず市長にぜひやっていただきたいなと思うのは、今コロナ禍で動きが少し鈍化している観光庁、観光庁にやっぱり鉄路の考え方とかというのをぜひアピールしてもらって、今ならまだ海外の人たちが入ってこれないわけですから、コロナの関係で。今のうちにアフターコロナということで、そういう戦略的な動きをぜひ見せていってもらいたいなと思うんですけど、それをさっきも言ってた国会議員と共に、要するに観光庁を揺り動かすような動きをぜひ、動いていかないとやっぱり駄目だと思うんですよね。だからそういう糸魚川は動いてるぞ、新潟や長野動いてるぞというところをぜひ観光庁あたりをしっかり揺さぶってもらいたいなと思うんですけど、そのような考え方いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

まさしくそのように国土交通省、そしてまた観光庁、そういったところにはしっかり訴えていきたいと思っております。そのためにも、今いろんなイベントを取り組ませていただいておりますので、イベントを成功しながら、それを実績として訴える一つの手段としたり、またデータとして取り組んでいけるように、またイベントをしておりますので、市民の皆様方からも、また議会の皆様方からもご協力いただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。

○１１番（保坂　悟君）

あとちょっと勉強不足でディーゼルのほうはちょっと分からないんですけども、鉄道の本来の大きな利点というのが、大量輸送という部分があると伺っております。えちごトキめき鉄道も、実は北陸本線のそういう貨物という部分での売上げとかがあると。

ただ、大糸線とかとなると、なかなか勾配もあったり物資の輸送量というのが限定されるのかもしれませんが、そういう夜間運用であるだとか、大量輸送という部分での鉄路の可能性というのは、現時点ではない、見込んじゃいけないという見方でよろしいんでしょうか。それともそうじゃなくって受入れだとか荷出しだとか、そういうところさえ整備すれば、大量輸送という部分では鉄路というのはまだまだ生かせるような幅があるのか、その辺もしご存じであれば教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。　〔都市政策課長　五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

大量輸送、あと定時制というのは、これは一般的に言われている鉄道の特性というふうに国が示しているものです。

ただ、先ほどの市長の答弁にもございます大量輸送というても、今単線区間ですれ違い区間のああいう状況で、今の１日９往復に全員乗ったところで大量性というのは、都市の近郊に対して知れているという状況です。

あと定時制というところになりますと、やはり豪雪、雪国のつらさの影響というのをまともに受けているというのが大糸線なのかなと思います。

ただ、保坂議員のほうの提案にもあります、生活だけではない、インバウンドも大事です。冬には、かつては非常に多くの方が白馬と妙高の間を大糸線と新幹線を使って行き来されていました。ただ、インバウンドに頼り過ぎたことからコロナというときの影響をまともに受けておるということもございますので、今、和泉議員の質問にもございました、そういう鉄道ファンとかそういう部分、いろんなところを使って大糸線ならではの、後は端っこがちゃんと新幹線につながっていて、端っこが松本につながっている、そういう特性みたいなのも私たちは活用しながら、もう一方では、市長の答弁にもありますように国等にも訴えながら大糸線の活性化ということを沿線と連携して、進めてまいってきとるところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。

○１１番（保坂　悟君）

ちょっと質問の仕方が悪くて申し訳なかったんですが、人というよりも貨物という部分で、何で貨物なのかというと、ここもディーゼルだからあれなんですけど、本来であれば、電車であればトラックの二酸化炭素の排出を抑えるという部分で電車であれば効果があるんですが、ただそうは言っても大量輸送という部分で、もし大糸線とかそういうローカル線であっても一定の整備をすれば、トラック輸送よりも大量に夜間郵送して、利益が出れるようなそういう部分が可能性としてあるんであれば、そういった取組も提案していかなきゃいけないのかなと思って、その辺の貨物の部分での認識を教えていただきたかったんですけども、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。　〔都市政策課長　五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

先ほど熱中して、そこの部分に触れることできませんでした。申し訳ございません。

現実的には、可能性は少ないと思います。というのは、かつてのＳＬが走ってたときに比べて、今のああいうディーゼル、かなり軽量化をされた、今の糸魚川駅に飾ってあるキハより、まだ軽量化の進んだ気動車で、それに合わせた軌道等の整備、橋りょう等の整備等をＪＲというのはコストカットのためにも進めてきておりますので、それを今度大量輸送とか、かなり重たいものを走らせ

る。当然、基盤的な部分、それ以外にも貨物を走らせるためには、そこで今度、そこに積み替えたり、そういうステーション的な機能、そういうものをもろもろこれから投資をしてやるかというと、そちらの方向よりは、まずは利用者をいかにして増やすかというとこの取組を進めるべきだというふうに私は考えます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。

○１１番（保坂　悟君）

あと大糸線に関して、いわゆる糸魚川市は世界ジオパークという部分で、ジオパークと大糸線という部分で何かリンクしたような、外に打って出るような方法論みたいなものがあるのかという部分で、今ＳＤＧｓではありませんけども、糸魚川は急勾配であって、水力発電所がある。あれも確かに電力をつくるという部分がメインなんですけども、ああいうものを観光的なものに結びつけるだとか、あと今、子供たちの理数科離れがありまして、そういった水力の構造であるとか、また電車、ディーゼルなんですけども、そういった乗り物を通して工学系の勉強をするとか、何かせっかく糸魚川の地の利を生かしたそういう魅力というのもさっき地域住民の熱量という話があったんですけども、ちょっと全然違う視点というか、やっぱり私たちは、生活の足という部分にとらわれ過ぎていて、そういう本当は目の前にいろんな学習の材料であったり観光の材料であったりするんですが、そういうものとして見てないところがあると思うんですね。だから、糸魚川は特に世界ジオパーク、一番に獲得しているエリアでもあるわけですから、そういったところの大糸線とジオパーク、またＳＤＧｓの世界貢献という部分を結びつけたようなプランの提供というのも面白いとは思うんですけども、材料的にはできそうな気がするんですね。災害は負のイメージがありますけど、そういう雪崩の構造であるだとか、あと地層のものであるだとかというのも、地域と鉄道に結びつけて観光開発していくとか。何ていうのか、そういう面白い視点をぜひどんどん取り入れてもらいたいんですけども、そういった、またそれをまた観光庁でアピールしていくというような取組をぜひしていただきたいんですが、その辺いかがなもんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

お答えいたします。

以前でありますが、女性の地質学者が「ジオ鉄」という切り口で、大糸線を調査していただいたことがございます。これは、なぜ大糸線かといいますと、断層のあるところというのは非常に浸食が激しくて、Ｖ字谷だったり、やはり谷間が多い部分がございます。そういうところというのは、やはり鉄道が走りやすい。どういうことかというと、車と違ってアップダウンがなかなか大きくは取れないもんですから、そうしたなるべく平坦なところを走っていくということになってくると、谷間を縫っていくということで、鉄道の走ってるというところは、やはりそういった地質的にも非常に変化の飛んだところで、非常に興味のあるとこだということで、少しマニアックになる部分が

あるのかもしれませんが、そういった意味で今、ジオパークの中においてはそういったところをお示しするとか、やはり興味を持ってる人が多くおられるんではないかと思いますし、これは日本のみならず地質の変化に、また日本列島の変化に対して興味を持った人であれば、いろんな方々が関心を持っていただけるのではなかろうかなと思っております。今うちで糸魚川ジオパークとして調査したのは、今そういった形で、「ジオ鉄」という形で調査した経過がございますので、そういったところをもしまた生かせるものは生かしていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。

○１１番（保坂　悟君）

時間があれば、またいろんな地層ミルフィーユとケーキとか、いろいろ話はあるんですけど、ちょっと一旦公共交通のほうで質問させてもらいます。

次に、（２）鉄道観光も含めた広域観光というものの見方で、バス、タクシー、なぜそんなことを言うかというと、やっぱり糸魚川市の新幹線でこっちに、糸魚川に来られたとしても、二次交通がやっぱりいろんな課題があると。

あともう一つの課題は、よくテレビ番組でもあるんですけど路線バスを使って旅行をしていくと、どうしても県境って時刻表が合わないといって、歩いて移動しましょうみたいなことが現にございます。

鉄道も当然大事なんですが、やっぱり普通の道路、一般路線の中でも観光バスというと、どうしても私たちはもう、ある起点から終着点まで行って、そこでお泊まりして、楽しんで帰ってくるという、１つのコースで売買されてるというか、そういうサービスの提供の仕方ですけども、本当の意味での地域に根づいた路線バス、でもちゃんと何ていうのかな、有効に旅行が楽しめるとか。それを考えるときに、どうしても県と県の会社のつくりといいますか、どうしても県境だと、そこが途絶えてしまうという。そうではなくて、利便性の高いバス運行であるとか、あと特に糸魚川みたいに谷筋に上がっていかなきゃいけない場合には、タクシーの観光ももうちょっとリーズナブルにできるような。今スマートフォンがあるので、いろんな申込みの仕方、またキャンセルの仕方、いろいろ比較的簡単にできるような時代になってきてるので、相乗りで旅行行く場合もできるでしょうし、ジャンボタクシーみたいなのもあるんでしょうけども、今、個の社会になってるので、ある程度タクシーでないとまずいのかもしれないんですが、そういったところで二次交通の部分を拡充していくと、ある程度広域でもルールづくりであるとか、だから公社化を勧めているんですけども。鉄道もそうですけども、そういった二次交通の部分での他県との連携、またはそういう一定のルール、料金の規定みたいなものを統一したことによってお互いに利益を得ていく。そういう考え方もこれからは必要なんじゃないかな。宣伝するときには、ターゲットの国に宣伝しにいけばいいわけですから、そういった的を絞った陸路の取組、そういったとこもぜひ考えていただきたい。そうしないとせっかくジオサイトたくさんあっても、なかなか時刻表でやられちゃって行けないみたいな話になってしまいますので、そういったところをもうちょっと広域、かなり広い広域でのそういう陸路の連携みたいなものをぜひ考えていただきたいんですけど、その辺いかがなもんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

お答えいたします。

やはり新幹線開業のときに、新幹線の糸魚川駅を活用するという形でつくらせていただきました北アルプス日本海広域観光連携会議という富山県で朝日町、そして長野県では大町、白馬、小谷、そして新潟県の中では上越市、やはりこの連携というのは非常にいいんではないかなとは思っております。非常に観光資源も豊富ですし、そういったところを一つの一体となってアピールしながら、この宣伝活動できるんではないかなと思っております。花もあれば、そして雪もあり、そして世界に冠たるＨＡＫＵＢＡ　ＶＡＬＬＥＹという状況もあり、温泉もたくさんございます。そういったところをしっかりとした連携をつくって、お互いに１つよりも、やはり６つになりましょうか、そこで対応していくことがいいのではないかなと思いますので、その辺の再構築なり、また再度力を入れていく方向で考えていきたいとは思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。

○１１番（保坂　悟君）

ぜひこれまでの価値観ですと、糸魚川に人を呼び込もう、糸魚川でお金を落としてもらおうというのは、原理原則的にはそうなんですけども、さっきマニアックという言葉使われましたけども、例えば大町にあって糸魚川にあって黒部にあるようなものをコースとして考えて、そのマニアックな方がその３点を楽しむみたいな、そういったところでリーズナブルな料金設定で電車も使う、ディーゼルも使う、バスも使う、タクシーも使うみたいな、そういう連携がスムーズにいくには、やっぱり公社なり、あとはさっき市長言われてた強力な連携の形をつくらないと、なかなかできないので、やっぱりお互いに尊重し合ってもうけるみたいな取組をぜひ進めていっていただきたい。今本当にコロナ禍で大変なんだけども、逆にコロナ禍だからこそそういった連携、調整ができるのかなというふうに思いますので、ぜひ取組をお願いしたいと思います。

あと下の（３）のほうの糸魚川における観光公社がつくってほしい理由も、実は窓口というか、他県に打って出るための観光公社という意味で、糸魚川の観光協会が駄目とかそういうんじゃなくて、狙ってるところが違いまして、糸魚川にあるいろんな施設のガイドと、あとインストラクターができるような、若い人たちがこの会社に勤めて、通年でやっぱり働けて、なおかついつでも４シーズンを楽しませる。そういう人材を糸魚川の観光公社という形で育成してもらえると、海あり山ありと言いながらも、なかなかそういうインストラクターが定着しない。サーフィンだ、ウインドサーフィンだ、スキーだ、スノーボードだといっても、シーズン雇用になってしまってなかなかそれも定着しない。あと高齢化も進んでいる。あと働き方もそうですよね。

以前も取り上げましたけど、サーフィンやりながら漁師さんやってもらうだとか、あと森林管理をしながら登山とか、そういう山岳のこともやってもらうとか、知識とかそういう豊富な方がここに定着できるには、やっぱり生活を安定させる会社なり、通年雇用ができる場が安定的にない限り、それは定着しないと思いますので、そこはちょっと勇気要るんですけども、ぜひそういう意味での

観光公社。糸魚川で全部丸抱えすると大変なので、やっぱり長野県、富山県と連携するとか。

もっと先の話をすれば、山岳とか海とか川とかを考えれば、本当に消防士の育成エリアですると か、３県合同の山岳救援隊の育成の場にするだとか、何かそういう視点も取り入れて、観光は観光で大事なんですよ。でも観光は、安全を保障してあげないと、またなかなか人が来づらいという部分もあるので、道路整備もそうなんですけども、それを自治体でやりましょう、民間でやりましょうといってもなかなか難しいので、そのような観光公社みたいなカテゴリーをつくることが、いろんなところに発信できると。場合によっちゃ学校を造ってもいいかもしれませんけど、そういった観光公社の考え方というのも、ぜひほかの自治体の首長さんと連携を取って話し合っていただければなと思うんですけど、その辺の考え方いかがなもんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

お答えいたします。

確かに、これからの誘客にしても、やはり責任を持って受入れ体制などもしっかりしていかなくてはいけない部分があろうかと思うわけでございます。そういう中で、私はやはり観光協会や、また今糸魚川市が取り組んでおりますジオパークの組織といたしましては、協議会がございます。そういったところが任意団体的な状態になっておるわけでございますので、やはりそういったところをしっかりとした責任を持った組織にしていかなくてはいけない部分がございます。そうなってくると、今公社というご指摘いただいておるですが、法人的な、ＮＰＯ法人でもそういったしっかりとした法人化しながら受入れ体制を整えたり、そして、また世間に認められる、そして責任のある組織・団体に持っていかなくてはいけないんだろうと思っておりますので、そういった見直しをしながら、今言ったようないろんなところに打って出れる、また安全で安心していただける団体として、やはり変えていかなくてはいけないんだろうと思っておりますので、そういったところを検討しながら進めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。

○１１番（保坂　悟君）

次、ちょっと大きい２番のほうに移らせていただきます。

学校におけるＳＤＧｓであります。今回、特にＬＧＢＴＱの理解とか、あと今現在、そこから派生して、学校の子供たちの男女の制服、スラックスの導入であるだとか、あと水着も今、男性でもワンピースタイプを着用するとかいろいろあるんですけども、そういった取組も状況によりというんですけども、要は前のめりに取り組むのか、それとも、いやそれはもう昔ながらのやり方でやるんだという、そういうスタンスなのかによって全然変わってくるもんですから、ぜひそういうことも導入した聞き取り、また保護者の聞き取りとか、そういう取組をぜひしていただきたいんですが、糸魚川市の現状は今どうなっているのか教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

小野こども教育課長。　〔教育委員会こども教育課長　小野　聡君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（小野　聡君）

お答えいたします。

糸魚川市における、学校におけるＳＤＧｓの取組ですけれども、いろいろな各教科によって、それぞれの教科書にも載っておりますし、そういったＳＤＧｓの視点を取り入れた学習を進めていただいております。

学校においては、実践上の努力点ということで、どのように学習を進めていくか、共通理解の下でいろんな教科において、そういった視点を持ちながら学習を進めていただくような形で取組を進めていただいております。

また、先ほどのジェンダーの制度の多様性とかそういった部分についてのものについても、教える側のまず教員のほうがしっかりと研修等で理解し、その上で、そういった視点で施設や取組、それから水着等も見ていけるようにこちらのほうで指導を進めているところです。いろんな業者のほうでもそういった水着等が出ておりますので、そういったものを保護者の皆さんにも見ていただく中で、取り組んでいっているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

靏本教育長。　〔教育長　靏本修一君登壇〕

○教育長（靏本修一君）

今ほど、こども教育課長の説明に補足させていただきます。

国のほうでは、性的マイノリティの児童生徒への適切な対応というようなことで２０１５年、２０１６年と２年度続けて各学校に通知とか、学校向けの内容等を伝達しております。それが一つの大きな変化になりまして、大学あるいは研究者を中心にいろんな研修会が始まってきています。

糸魚川市の場合も教職員の研修の中にそのような内容等も加味した形でもって、現場サイドで研修のほうを始めていきます。とにかく教職員の理解なくして何も適切な対応もできませんし、保護者の相談にも乗れません。そんな意味合いで、計画的な研修を積み重ねていく中で子供たちの様子を見、そして保護者の悩み、あるいは相談、そして子供たちへの対話等も適切にできるような体制づくりを一年一年しっかりと積み重ねながら進めていきたい。決して今までの形で閉じこもるということではありません。これからの将来的な子供たちですので、とにかく間違いのないように丁寧に対応する中で、子供一人一人の存在を大変大事にしながら、これから支援に努めてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。

○１１番（保坂　悟君）

今回、学校でジェンダー平等とかと、あえて取り上げたのもこういうところからいじめに発展し

たりとか不登校につながったりするもんですから、今言った教員、保護者、生徒が、まず理解すること。あと施設的におトイレであるとかそういうところも男女共用でできる多目的トイレみたいなものを整備することによって、そういう心と身体から意識が違う場合とかも対応できるとか。あと生理の貧困とかで、昨日か、テレビでもやってました。高校生が生理用品を学習して、女性のそういう気持ちとかも理解してあげられるような教育も今取り組まれてますし、あと男性トイレであってもいろんな体に支障があることによってサニタリーボックス、要は汚物入れですけども、そういうようなものがもう常備、設備されているだとか、そういった感覚を今の子供たちにしっかり知ってもらうということも大事なので、あえて今回、質問に取り上げさせてもらいましたので、機会あるごとに、また指導をお願いしたいと思います。

全然時間がなくなっちゃって、すみません。大きい４番の農福連携といいますか、水産業の連携のところで、あえて今回、ひきこもりに絞って話をしましたのは、体は比較的健康体で仕事もできるんですけども、要はメンタルがなかなか外に出るようになれない。でも、信頼できる人がいると一緒に出て作業ができるとか、そういうケースがあったものですから、草刈りであるだとか、あとそういう簡単な業務をある程度の範囲を決めて、付き合ってあげる人がいれば作業ができるみたいな、そこでまた生きがいを持ってもらうような、そういう取組が今なかなか窓口もないですし、実際、仕事といっても収入を得るところもないので、今回ノウハウを持ってるのが、シルバー人材センターさんであればそういった仕事のノウハウを持ってたりとか、シルバー人材センターさんに仕事をしてもらうというよりも、管理監督というか指導係というか、そういったところでもお手伝いできればいいのになという部分で、ちょっと今回、分野が違うんですけども話を上げさせてもらいました。

もう一つ、糸魚川という限られたエリアの中で共存共栄を図る意味では、せっかくそういうシルバー人材センターみたいな方がおられれば、そういった福祉の部門でも連携が取れるような、ちょっと手助けを自治体でしていただければなと思ったんですが、今後、いろんな形で情報交換するなりという取組をぜひ始めていただきたいと思うんですが、その辺、健康増進課、福祉事務所、あと商工観光課になるんですかね、そういったとこの連携、ぜひひきこもりのための何かバックアップ体制みたいなものを、ぜひちょっと検討してもらいたいと思うんですが、その辺いかがなもんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

お答えいたします。

今非常に議員がご指摘いただいた点については、非常にひきこもりになられる方々も多くなっておられるという話もお聞きさせていただいておりますし、また、どちらかというとやはりそういったいろんな仕事が、需要があるんだけど、それを携わっていく人たちがいないという現状もございます。そういったところをいろんな障害を持った方におかれましては、全てやれるわけではございませんでしょうし、やれるところはやれるというような、その辺の間に入ってコーディネートをしていくところが大事になってくるんだろうと思っております。そのようなことから今、議員ご指摘

いただいたように多くの関係する行政の窓口があるわけでございますので、その辺を統一するような形で障害者の皆様方に、また活躍する場を探っていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。

○１１番（保坂　悟君）

ぜひそういう連携を取っていただいて、働く機会とかそういうのを提供していただければなと思います。

最後、時間なくて、もうお願いだけになりますが、教育費をぜひしっかり確保していただいて、とにかく子供たちには、何か学級崩壊だとかいじめだとかがあったら、人を配置して早急に対応できる、そういう取組をぜひお願いしたいと思います。

以上で、私からの一般質問を終わりたいと思います。ありがとうございました。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、保坂議員の質問が終わりました。

ここで暫時休憩いたします。

再開を３時半といたします。

〈午後３時２１分　休憩〉

〈午後３時３０分　開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、利根川　正議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。　〔１番　利根川　正君登壇〕

○１番（利根川　正君）

みらい創造クラブ、利根川　正です。

１回目の質問をお願いします。

１、農業の肥料、燃料の支援と農業の取組について。

コロナ不況やロシアによるウクライナ侵攻により物価高が続き、肥料は昨年より１袋５００円ほどの値上がりで、燃料においては１年前のガソリン代１リットル当たり１５８円から今年８月には１７０円で１２円の値上がりになっています。

今後も数年続くと考えられ、農作業機械の使用頻度を控えたり、化学肥料を減らし有機栽培をするなど努力していますが、生産者は厳しい状態です。

(1) 肥料が値上がりした際に生産者を直接補助する制度はなく、今回新たに政府は、化学肥料で２割低減の取組を行う農業者に、肥料コスト増加分の約７割を補填する補助を打ち出しま